

「社会的な見方・考え方」と「深い学び」に向かう「問い」の相関

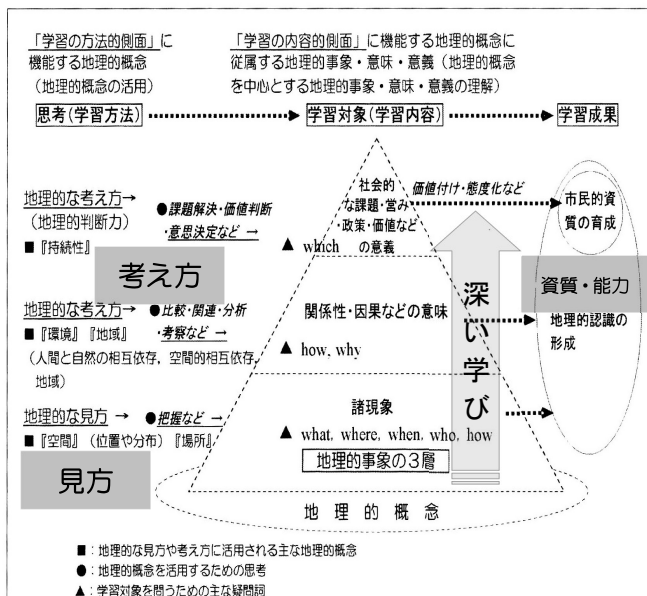
「現代社会の見方・考え方」と「問い」	
見方	・現代社会の諸事象（法・経済、国際社会） →それにはどのような意義があるか。 →それにどのような目的があるか。
	・事象相互の関連（背景・原因・結果・影響） →それが成立された背景にはどのようなことがあったか。 →それはなぜつくられたか。
考え方	・課題解決 →どのような課題があり、どうしたらよいか。
	・価値判断 →どちらがよいか。
	・意思決定 →どうすべきか。



「地理的な見方・考え方」と「問い」	
見方	・位置や空間（絶対的、相対的）：規則性・傾向性、地域差など →それはどこに位置するか。 →それはどのように分布しているか。
	・場所（自然的、社会的など） →そこはどのような場所だろうか。
考え方	・人間と自然の相互依存関係（環境依存性、伝統的、改変、保全など） →そこでの生活はまわりの自然環境からどのような影響を受けているか。 →そこでの生活はまわりの自然環境にどのような影響を与えているか。
	・空間的相互依存作用（関係性、相互性など） →そこはそれ以外の場所とどのような関係をもっているか。
	・地域（一般的共通性、地方的特殊性） →その地域は、どのような特徴があるだろうか。
	・課題解決 →どのような課題があり、どうしたらよいか。
	・価値判断 →どちらがよいか。
	・意思決定 →どうすべきか。

「歴史的な見方・考え方」と「問い」	
見方	・時系列（時期、年代） →どの時代か。 →何年か。
	・諸事象の推移（展開、変化、継続） →どのように展開（変化）したのだろうか。
考え方	・諸事象の比較（類似、差異、特色） → ～と～では、異なる点（共通点）は何か
	・事象相互のつながり（背景、原因、結果、影響） → ～は、どうして起きたのだろうか。 → ～と、どのような関連があるのだろうか。
	課題解決 →どのような課題があり、どうしたらよいか。
	価値判断 →どちらがよいか。
	意思決定 →どうすべきか。

◆「社会的な見方・考え方」と「深い学び」の関係（「地理的な見方・考え方」を例に）



「学習の内容的側面」と「学習の方法的側面」に機能する地理的概念からみる地理的な見方・考え方、地理的事象、地理的認識などの学習展開上の関係(吉田2016)

「深い学び」とは…

知識が構造化された状態



【授業づくりの視点】

- ・科学的・社会的認識形成と市民的資質育成を統合的に行う＝『社会科の本質』
- ・知識・概念・価値を構造化した授業構成 → 「よりよい社会を築く力」
- ・「深い学び」の状態への手立てが、「資質・能力」を育成することにつながる。